

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091500054		
法人名	社会福祉法人協立福祉会		
事業所名	高齢者グループホームふきぼこ		
所在地	塩尻市大字棧敷 538-1		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年7月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2091500054&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成23年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>協立福祉会の理念では、わたしたちは安心、信頼、参加の介護を目指していますと謳い、誰もが安心できるサービスの提供をめざします。 利用者の人権を守り利用者の立場に立った介護をめざします。 地域のみなさんやボランティアさんの参加で地域に開かれた施設をめざします。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは社会福祉法人協立福祉会を母体を持ち、塩尻協立病院に隣接し、枯山水の庭(旧家跡地活用による)が特徴的なホームである。また田園風景が広がる棧敷地区にあり、この環境を活かした開放的でゆったりとした日常生活を支援されている。協立福祉会のバックアップ体制の基に、医療や介護に関する連携や協力が得られ機能している。また「健康友の会」の会員による活動として、菜園づくりや年間を通したホームの行事等に関わって頂く中で、地域の方々と繋がっていくホームとしての成果が得られつつある。今年度は協立福祉会の理念が見直され、同時に「ふきぼこ」の理念についても職員一体となり検討し、具体化を目指してきた。開所後4年目に向け、新たな理念の実践が期待されるホームである。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在、協立福祉会の理念をあらためて作成しています。GHでもみんなで話し合っています。その新しい理念に沿ってGHの理念も作りなおします。	今年度、協立福祉会の理念の見直しが行われ、同時に「ふきぼこ」の理念についても見直され検討中である。責任者より原案を提示し、全職員・家族会等で話し合い、それぞれの思いを反映させた理念が近々具体化される所であり、今後の共有や実践が期待される。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大正琴教室が隔週で開いており、メンバーは諸行事のときに、ホームで演奏会を開き交流している。	ホーム近隣の棧敷・長畝地区にいる「健康友の会」の会員が中心となり、ホームを拠点に大正琴教室(一室を開放)や演奏会を開催、菜園作りや行事への参加・協力を頂いている。自治会への加入はないが散歩時に挨拶を交わし、祭りの舞台を見に行く等交流を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域には活かされていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に運営推進会議を開いた。意見交換や有意義な提案もあり、次回の会議に活かしたい。	6月に1回開催。会議には区長・民生委員・地域包括支援センター担当者やご家族代表・健康友の会塩尻支部代表者等の参加を頂き開催。運営推進会議の役割を共有すると共に、ホームの状況報告を行い、それぞれの立場から要望・意見交換がなされている。	グループホームふきぼこの運営推進会議規定にそった開催が望まれます。多くの委員の目を通した話し合いを行う中で、モニター役を担っていただくこと、地域の理解や協力を得る機会とされる等、会議を活かしてサービス向上へ繋ぐ取り組みを希望します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは報告や相談も含め、概ね良好な関係が築かれている。介護相談員さんの定期的訪問もある。	今年度は6月に厚労省の介護サービス指導官の現地指導を受けている。市の担当者とも連絡を密に取り交し、打ち合わせ等を行い、実状にそった話し合いが持たれた。また、市の介護相談員の訪問や運営推進会議に地域包括支援センターの担当者の出席を頂いている。	

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設は開放的に設計されており、職員は身体拘束をしないケアに努めている。	管理者より常にゆったりとした気持ちで支援を行うことを大切にしているとお聞きした。玄関に施錠はしていないが、ホーム周囲に囲いはなく、すぐ道路に面していることもあり、鈴を取り付けている。予測されるリスクについてご家族等と話し合い、協力や工夫等に取り組んでいる。	利用者の権利擁護や指定基準において禁止の対象となる具体的な行為等について、ホーム内外での研修を毎年位置づけ、常に職員の意識化を図り、ホームの方針である自由な暮らしの支援が継続されるよう望みます。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部会や研修報告またはマニュアルに沿って努力している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	同上		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時での話し合いを大切にしている。ご家族の要望を積極的に把握している。	今年度は年2回の家族会を計画。そのうち1回は協立福祉会合同の家族会を開催。多くのご家族が参加され、交流・話し合いがなされた。相談・苦情対応窓口の案内はしているが実際は殆どないため、来訪された時は積極的に聞くよう努め、要望を把握し、反映に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会や日常の業務内でのコミュニケーションを大切にしている。	年度当初に、目標面談を個別に行い、職員一人ひとりの意見や提案を聞く機会を設けている。ホーム全体が、日常的に話し易い雰囲気作りを大切にすると共に、毎月の「ふきぼこ部会」は全員参加とし、様々な話し合いを行い、より良いサービス提供へと取り組んでいる。	

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や労働条件の整備と運用はきちんとされている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部会や日々のコミュニケーションを大切にしている。内部の研修制度もあり全員が参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉会内の3GHの交流は盛んだが、外の事業所との交流はまだされていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を文書にしたり、話を聞いて関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHでの生活を共にするパートナーとして接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有化に努め、関係作りを強化している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が多いGHです。出来るだけ多く面会していただくよう取り組んでいる。	ご家族・姉妹等の親戚や、馴染みの仲間等の面会が多いことを職員よりお聞きした。ご家族が連れ出し、お墓参りや外食をされたり、家が心配な利用者を職員が連れて一時帰宅し、庭先の落採りを楽しむ支援や馴染みの美容師による理美容支援等、継続的に支援されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆がここでの生活にトラブルがないように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	去年退所された方にも時々お見舞いに伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や入浴、レクなど無理強いせず、本人の希望を尊重している。	職員は日々の関わりの中で利用者の思いや意向の把握に関心を払い、把握したことを‘連絡ノート’に記すと共に、申し送りや看・介護記録を通して共有を図り、利用者の意向にそった支援に努めている。またセンター方式の一部を使用し利用者本位の支援に取り組まれている。	

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察に努め、カルテや日報から共有化している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部会でのカンファレンスを重視し、記録してケアプランに反映させている。	(9)に加えて毎月の‘ふきぼこ部会’で意見交換を行い、介護計画作成担当者が要点・原案を提示し、担当者会議を行い検討し、介護計画書が作成されている。ご家族の来訪時に説明や意向を把握し反映させている。モニタリング・評価を行い、定期や随時の見直しが行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への受診、物療科への通院、または訪問マッサージの導入など本人およびご家族の要望も積極的に受け入れている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友の会の畑の手伝いや病院のお祭りなどへ参加している。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の主治医の往診があり、体調変化したときはすぐに病院へ受診している。	利用者の意向にそったかかりつけ医・受診となっている。毎週訪問看護による健康チェックと協力医による月2回の往診による連携や病院間の医療連携が図られている。通院は基本的にはご家族同行とするが臨機応変に対応し、ご家族との連携や情報共有が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師と連携して行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携に最大限努力している。(今までの入院事例でも連携は密にされていた)		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時や家族会で話し合っている。またご家族と主治医との診察での話し合いもされている。	家族会の折に個別面談し、現段階での意向の把握を行った。協立病院の学習会に参加し、重度化や終末期に向けた職員力を整えて行く取り組みが行われている。協力医の理解・協力が得られており、ご家族と触れ合う場を設ける等、日頃からの関わりも大切に支援されている。	確かな医療連携が確保出来ているホームとして、ホームの方針の明確化や指針の整備を早急に行い、指針を基に様々な学習会を重ね、職員の判断や対応が今以上に適切に行われて行くよう取り組みを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十分ではないが行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の緊急連絡訓練を2度実施したが、短時間で全職員に徹底された。運営推進会議でも話題になったが、これからの課題となっている。	枚敷地区の防災訓練に参加したり、緊急連絡網の確認訓練(夜間を含)等を実施。昨年消防署の指導を受け、避難経路等へ日常的に気を配り、利用者の安心・安全確保に努めている。消防自動通報装置・スプリンクラーは設置。地域との連携については継続課題となっている。	何時発生するかもしれない様々な災害を想定し、災害毎のマニュアル整備を行い、それにそった想定訓練を毎年重ねていき、全職員が身につけ対応できるよう希望します。近隣住民へも様々な活動を通しながら、出来るだけ早期に協力体制が整備されるよう期待します。

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重した接遇に努めている。またプライバシーに配慮した記録や保管にも努めている。	今年度、接遇研修に参加し、日頃の言動に対して振り返りが行われた。職員は利用者の誇りやプライバシーを尊重した対応を日常的に配慮し支援されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夏以降は友の会の畑で採れた旬の野菜を使って調理している。フキや柿の皮むきをしたりしている。片付けも協力して行っている。	その日の担当者が献立を決め、利用者がテーブル上で出来ること(野菜の皮むき・食器やテーブル拭き等)を椅子に腰掛けて行っている。誕生会メニューや外食等、利用者の希望にそった個別の楽しみも支援されている。職員も同じテーブルで談笑しながら食事されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	努めている。夜間の水分補給も臨機応変に行っている。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に夕食後は全員が行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに配慮しておこなっている。	排泄に関する生活日誌の共有や利用者のトイレサインを把握・誘導し、日中は全員がトイレでの気持ち良い排泄が出来るよう支援されている。歩行器や車椅子利用者への介助方法や男性利用者への対応方法等について、個別の見極めが行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫やレク体操を行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	給湯器の関係から午前中ですが隔日に入浴している。入浴剤も使用して楽しんでいただく工夫をしている	深夜電力使用の給湯器で湯量が限られている為、午前の時間帯で、概ね1日置きに入浴をして頂いている。家庭浴槽なので一人ずつ支援し、入浴剤等を工夫し、現在の条件内で出来る支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝など休みたいときに休めるようすずめ、こまめな室温調整もしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬もミスを防ぎ、飲み忘れがないよう確認している。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を楽しみ、希望があれば支援する。	近隣の散歩を楽しんだり、隣接の病院内の売店での買い物、ご家族との一時帰宅や外出等、一人ひとりの意向にそった外出を支援している。法人の車(椅子対応)を利用しての遠方への楽しみ支援も行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所管理ですが、希望に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が掛けられるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然環境を活かして工夫している。	枯山水の広い庭に面した陽当りの良いホームである。バリアフリーの玄関を入るとカラフルな障子や季節のお雛様が目に入り、ゆったりとした居間空間に食卓が配置され、テラスにやってきた猫に話しかける利用者や、テレビの歌を口ずさむ利用者等、思い思いに過ごされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を置いたりして工夫している。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の思いを尊重している。	和室が1室、その他は洋室。使い慣れたベッドを持ち込む利用者もいるが、基本的にはベッドは備え付けてあり、その他の生活用品は全て持ち込みである。衣装かけを置いたり、ご家族との写真や手作り品等を飾る等、その利用者らしい居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている。		